

INTERVIEW

日本ガイシ社長

加藤 太郎氏

かとう たろう

日本ガイシは送電線の絶縁に用いるガイシで培ったセラミックスの成形技術などを他事業に展開している。現在の稼ぎ頭は排ガス浄化装置など自動車関連製品に移行。ここ数年は、気体分離膜など次世代技術の開発にも注力する。加藤太郎社長に国内外で競争力を維持する戦略について聞いた。

(名古屋・杉本要)

自動車関連製品の需要をどう見ていますか。米国などでトラックやインドなど新興国で販売が回復し、排ガス浄化装置(DPF)の需要が増加している。また中国などの普及が進む中、従来のガソリン車に頼らぬ製品開発は。リチウムイオン二次電池より大容量な電池向かい開発案件を絞り込み、2年以内に製品

有望な開発案件を手がける。

電池や混合ガスから特定の液体・気体を分離するセラミックス製の薄膜を開発中だ。また4月には名古屋工業大学と共同で研究所を設立した。

日本ガイシは送電線の絶縁に用いるガイシで培ったセラミックスの成形技術などを他事業に展開している。現在の稼ぎ頭は排ガス浄化装置など自動車関連製品に移行。ここ数年は、気体分離膜など次世代技術の開発にも注力する。加藤太郎社長に国内外で競争力を維持する戦略について聞いた。

(名古屋・杉本要)

自動車関連製品の需

要をどう見ていますか。

「米国などでトラック

やインドなど新興国で販

売が回復し、排ガス浄

化装置や粒子状物質減少

込まれる。需要の増加分

を確実に取り込むため、

2011年は排ガス浄化

装置やDPFの工場をメ

キシコ、日本で稼働し

た。世界的に増産体制を

敷いている」

電気自動車(EV)

などの普及が進む中、従

来のガソリン車に頼らぬ

製品開発は。

リチウムイオン二次

電池より大容量な電池向

かい開発案件を絞り込

み、2年以内に製品

有望な開発案件を手がける。

電池や混合ガスから

特定の液体・気体を分

離するセラミックス製の

薄膜を開発中だ。また4

月には名古屋工業大学と

共同で研究所を設立し

た。

日本ガイシは送電線の絶縁に用いるガイシで培ったセラミックスの成形技術などを他事業に展開している。現在の稼ぎ頭は排ガス浄化装置など自動車関連製品に移行。ここ数年は、気体分離膜など次世代技術の開発にも注力する。加藤太郎社長に国内外で競争力を維持する戦略について聞いた。

(名古屋・杉本要)

自動車関連製品の需

要をどう見ていますか。

「米国などでトラック

やインドなど新興国で販

売が回復し、排ガス浄

化装置や粒子状物質減少

込まれる。需要の増加分

を確実に取り込むため、

2011年は排ガス浄化

装置やDPFの工場をメ

キシコ、日本で稼働し

た。世界的に増産体制を

敷いている」

電気自動車(EV)

などの普及が進む中、従

来のガソリン車に頼らぬ

製品開発は。

リチウムイオン二次

電池より大容量な電池向

かい開発案件を絞り込

み、2年以内に製品

有望な開発案件を手がける。

電池や混合ガスから

特定の液体・気体を分

離するセラミックス製の

薄膜を開発中だ。また4

月には名古屋工業大学と

共同で研究所を設立し

た。

日本ガイシは送電線の絶縁に用いるガイシで培ったセラミックスの成形技術などを他事業に展開している。現在の稼ぎ頭は排ガス浄化装置など自動車関連製品に移行。ここ数年は、気体分離膜など次世代技術の開発にも注力する。加藤太郎社長に国内外で競争力を維持する戦略について聞いた。

(名古屋・杉本要)

自動車関連製品の需

要をどう見ていますか。

「米国などでトラック

やインドなど新興国で販

売が回復し、排ガス浄

化装置や粒子状物質減少

込まれる。需要の増加分

を確実に取り込むため、

2011年は排ガス浄化

装置やDPFの工場をメ

キシコ、日本で稼働し

た。世界的に増産体制を

敷いている」

電気自動車(EV)

などの普及が進む中、従

来のガソリン車に頼らぬ

製品開発は。

リチウムイオン二次

電池より大容量な電池向

かい開発案件を絞り込

み、2年以内に製品

有望な開発案件を手がける。

電池や混合ガスから

特定の液体・気体を分

離するセラミックス製の

薄膜を開発中だ。また4

月には名古屋工業大学と

共同で研究所を設立し

た。

日本ガイシは送電線の絶縁に用いるガイシで培ったセラミックスの成形技術などを他事業に展開している。現在の稼ぎ頭は排ガス浄化装置など自動車関連製品に移行。ここ数年は、気体分離膜など次世代技術の開発にも注力する。加藤太郎社長に国内外で競争力を維持する戦略について聞いた。

(名古屋・杉本要)

自動車関連製品の需

要をどう見ていますか。

「米国などでトラック

やインドなど新興国で販

売が回復し、排ガス浄

化装置や粒子状物質減少

込まれる。需要の増加分

を確実に取り込むため、

2011年は排ガス浄化

装置やDPFの工場をメ

キシコ、日本で稼働し

た。世界的に増産体制を

敷いている」

電気自動車(EV)

などの普及が進む中、従

来のガソリン車に頼らぬ

製品開発は。

リチウムイオン二次

電池より大容量な電池向

かい開発案件を絞り込

み、2年以内に製品

有望な開発案件を手がける。

電池や混合ガスから

特定の液体・気体を分

離するセラミックス製の

薄膜を開発中だ。また4

月には名古屋工業大学と

共同で研究所を設立し

た。

日本ガイシは送電線の絶縁に用いるガイシで培ったセラミックスの成形技術などを他事業に展開している。現在の稼ぎ頭は排ガス浄化装置など自動車関連製品に移行。ここ数年は、気体分離膜など次世代技術の開発にも注力する。加藤太郎社長に国内外で競争力を維持する戦略について聞いた。

(名古屋・杉本要)

自動車関連製品の需

要をどう見ていますか。

「米国などでトラック

やインドなど新興国で販

売が回復し、排ガス浄

化装置や粒子状物質減少

込まれる。需要の増加分

を確実に取り込むため、

2011年は排ガス浄化

装置やDPFの工場をメ

キシコ、日本で稼働し

た。世界的に増産体制を

敷いている」

電気自動車(EV)

などの普及が進む中、従

来のガソリン車に頼らぬ

製品開発は。

リチウムイオン二次

電池より大容量な電池向

かい開発案件を絞り込

み、2年以内に製品

有望な開発案件を手がける。

電池や混合ガスから

特定の液体・気体を分